

文部科学省による放射能汚染データの分析

2011年10月7日

日沼洋陽 yoyo.hinuma@gmail.com

文部科学省の汚染マップですが、いくつか傾向が見えてきました。

http://radioactivity.mext.go.jp/ja/1910/2011/10/1910_100601.pdf

最も価値があるのは参考1（11ページ）だけです。

・参考1の高線量地帯（水色）は、全て「吹き溜まり」です。

一 福島県ですと、阿武隈川と只見線がある「谷」に沿って高線量地域が伸びています。これらの谷を流れる風に乗った放射性粒子が、谷の両側の「吹き溜まり」にあたって止まっています。

一 宮城県北端と西端、関東平野の北端と西端には山と森があるので、この森に捕まった放射性粒子のせいで線量が高くなっています。

一 水戸から市川へのラインは（山脈がないので）例外のように見えますが、このラインは気象境界線と重なっています。

2004年12月31日

http://weather.c.yimg.jp/weather.yahoo.co.jp/weather/jp/past/img/chart/2004/weathermap00_20041231.jpg

雨雪境界線

http://rapidfire.sci.gsfc.nasa.gov/subsets/?subset=AERONET_Osaka.2005001.terra.250m

このライン上で空気の流れが変わるため、このライン上に高線量地帯ができる（風はなかなか境界を超えにくい）としたら説明がつきます。

どうしても関東から離れられない場合は、千葉市より南東に避難するのが最善策かもしれません。また、新潟県南部、山梨・長野・静岡県の東部が危険地帯になっている可能性があります。

・平野の北西部に高線量地域が固まっていますが、これは夏の南東の季節風の影響と思われます。冬には北西の季節風が吹くので、平野北西部の粒子が平野内に流れ込んでくる危

険性があります。「これからが本当の地獄」です。平野内は、粒子が溜まりにくいものの、粒子が通過します。

・参考1の図は、マクロ的に見て正しそうですが、ミクロ的な情報が入っていません。ネットでは「県庁所在地がすべて線量が低いから捏造だ」といった説が流れていました。また、23区のうち、足立・葛飾・江戸川区以外は、線量が最低値ということになっています。

しかし、たとえば23区では、高い線量を計測できるのは、吹き溜まりになっているごく一部の場所の近くだけではありませんか？ こういう局所的な情報が抜けているので、参考1図で濃い青の色はすべて安全、ということではありません。

・23区や県庁所在地の線量が低いことから捏造だという説がありますが、個人的には捏造説を採用しません。前橋市周辺なんて特に「あからさま」に見えますが、これは山地の影響で説明がつきます。